

日本臨床発達心理士会 中国・四国支部会報

Japanese Association of Clinical Developmental Psychologists

第32号(2020年3月31日発行)

発行 日本臨床発達心理士会中国・四国支部
編集 日本臨床発達心理士会中国・四国支部会報編集委員会
事務局 〒729-0292 福山市学園町1番地三蔵 福山大学人間文化学部心理学科 日下部研究室
E-mail : info@jacdpcs.org TEL : 084-936-2112 (代表)

目 次

- 1 ご挨拶
- 2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第17回総会のご報告
- 3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第50回研修会のご報告
- 4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第51回研修会のご報告
- 5 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第52回研修会のご報告
- 6 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第53回研修会のご報告
- 7 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第54回研修会のご報告

1 ご挨拶

日本臨床発達心理士会中国・四国支部
支部長 深田昭三

みなさま、それぞれの職場で、新型コロナウイルスの広がりへの対応のため大変ご苦勞をされているものと思います。中国四国支部も、ご存知の通り新型コロナウイルスの広がりのため、第54回の支部研修会は中止とさせていただきます。直前までできる限り開催できるよう努力しましたが、国から出される感染拡大の防止の呼びかけに応じ、また参加者の皆様の安全確保を行うため中止決定をすることとなりました。ご参加を予定されていた皆様に多大なるご迷惑をおかけすることとなりましたこと、深くお詫び申し上げます。

さて、今年度を振り返ると、第51回から第53回まで3回の支部研修会を、岡山、島根、愛媛の各県で開催いたしました。内容的にも、ご担当いただいた講師の先生方についてもバラエティに富んだ研修会になりました。研修会の開催に尽力していただきました先生方にお礼申し上げます。

来年度最初の研修会は愛媛県で総会とともに行われます。そのほか、鳥取、山口、香川の各県での研修会を予定しています。ぜひ積極的にご参加ください。

2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第17回総会のご報告

遅くなりましたが、2019年5月26日(日)13:00より行った中国四国支部第17回総会の報告をします。今年度の総会は、岡山大学教育学部において行われ、28人の支部会員が参加しました。当日は、例年通り総会前に役員会が開催され、この役員会の結果を受けての総会の開催となりました。総会後には、同じ会場で第51回研修会が行われました。

総会では「1. 2018年度活動報告について」「2. 2018年度決算について」「3. 2019年度活動計画について」「4. 2019年度予算について」「5. 支部役員交代について」「6. 支部規約の改定について」「7. その他」の7本の議題が審議されました。

このうち「1. 2018年度活動報告について」では、前年度に行った総会、研修会、会報・ホームページでの情報提供、事例報告会、役員会の各事業の実施報告に加え、平成30年7月豪雨災害への支部の対応についても報告がなされ、異議なく了承されました。「3. 2019年度活動計画について」では、前年と同様に、総会、研修会、会報・ホームページでの情報提供、事例報告会、役員会の各項目に渡って活動計画が提案され、これも異議なく了承されました。

「5. 支部役員交代について」では、支部外への転出した県役員(1名)の後任が選出されました。「6. 支部規約の改定について」では、役員の任期を3年から2年に改め、現役員の任期から適用することを骨子とする支部規約の改定が提案され、異議なく了承されました。この規約改定に伴い、現役員の任期は今年度いっぱいとなり、来年度の総会において新役員が選出されることになりました。

「7. その他」では、支部会員数と県別の会員数の内訳に加え、公認心理師に係る現況が報告されました。

中国四国支部規約では、支部長、副支部長、事務局長、会計、県役員(各県から1名ずつ)、研修担当、会報担当、ホームページ担当、幹事が規定されており、県役員と他の役員の兼任などがあるため、計15人の会員が役員会を構成し、支部運営に当たっています。

3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第50回研修会のご報告

2019年2月3日(日)、高知市勤労者交流館第2研修室にて、中国・四国支部第50回研修会が開催されました。「描画テストを活用したアセスメントとその活用～HTPPを中心に～」というテーマで、大阪樟蔭女子大学教授の高橋依子先生によるご講演を賜りました。

投影法の一つである描画テストは、クライアントの描いた絵を分析することによって、そのパーソナリティや心理状態を把握し、適切な支援につなげるための心理検査です。描画テストには、人物画テスト(グッドイナフのDAM)や樹木画テスト(コッホのバウムテスト)などがありますが、今回の研修では「家→樹木→人物→その人物の反対の性別の人物」を順番に描くHTPPテストについて学びました。

講義の前半では、主にHTPPテストのもつ意義や目的、パーソナリティの側面、テストの限界など、テストの概要部分と実施方法についてお話していただきました。そして後半には、実際に高橋先生がクライアントに実施したHTPPテストの事例を基に、家屋画→樹木画→人物画の見るポイントや特徴



の捉え方、絵の位置や大きさ、線の太さや細さ、丁寧さや雑さ、装飾物の有無等から導き出される具体的な解釈の仕方について、分かりやすく丁寧にお話くださりました。

アセスメントとして検査を実施する以上、結果をクライアントにフィードバックしなければなりません。高橋先生は、クライアントの状態に合わせる事が重要であり、クライアントが理解できる内容を理解できる表現で説明することの大切さを話され、参加している多くの会員にとっては、臨床発達心理士として、要支援者に対する日々のかかわり方を改めて振り返るきっかけになりました。

参加者数は33名（中国・四国支部30名、他支部3名）、士会各支部主催の研修としての資格更新ポイントは1ポイント（3時間）でした。

4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第51回研修会のご報告

2020年5月26日（日）に岡山大学教育学部東棟2階1201室にて日本臨床発達心理士会中国・四国支部第51回研修会が開催されました。

ATLAN（エイ・ティ・ラン）の開発者である高橋登（大阪教育大学）先生をお招きし、同検査の利用に関し、理論と実践の両面から説明をいただいた上で、長年、臨床発達心理士としてご活躍されてきた経験を活かして、これからの臨床発達心理士に求められる専門性について示唆を与えていただいた。ATLANは小・中学校段階の子ども達の言語能力を測定する目的で作成された検査であり、短時間で正確に子ども達の言語能力を測定できるよう工夫されている。「語彙（ことば）」「漢字」「（漢字の）書取り」「文法・談話」「音韻意識」「語用」の6種類の検査があり、子どもの言語領域の躰きを的確に把握することができる。こうしたアセスメントの実施により、系統的な支援計画を立案することが可能となる。臨床発達心理士としての専門性を考えると、その検査の背景にある発達心理学／言語心理学的知見を踏まえた上で、検査を実施し、かつ、保護者や子どもの教育・支援に携わる専門家へと、結果を伝え、具体的な支援の提案を行っていく必要がある。同研修においては、その点を詳細に解説していただいた。最後は、「私たちが考える臨床発達心理士としての専門性」として、意見をいただけた。ATLANを支援のアセスメントとして利用している方は、その理論的背景を学べたと好評であった。一方、ATLANについて初めて学んだ人は、その有用性を感じられ、ご自身のアセスメントの新たなレパートリとしたいといった感想が寄せられた。大変満足度の高い会となった。

参加者は49名であり、東京支部も含めた他支部からの参加も多かった。士会各支部主催の研修としての資格更新ポイントは1ポイント（3時間）でした。

5 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第52回研修会のご報告

2019年10月5日（土）、島根県立大学松江キャンパス大講義棟にて、中国・四国支部第52回研修会が開催されました。「場面緘黙（selective mutism）の理解と支援」というテーマで、島根県立大学人間文化学部保育教育学科教授の園山 繁樹先生によるご講演を賜りました。

本研修会の前半（理解編）では、場面緘黙に関する基礎知識（症状の特徴、有病率、発達段階における変化、アセスメント法、等）について学びました。後半（支援編）では、段階的エクスポージャー法や刺激フェイディング法を中核にした、学校・家庭・心理専門職の連携協力による支援方法について、事例を通して具体的に学ぶことができました。

実際に園山先生が関わられた事例や国内外の最新の情報などが紹介され、参加者にとっては大変有意義な研修となりました。

参加者数は65名、士会各支部主催の研修としての資格更新ポイントは1ポイント（3時間）でした。



6 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第53回研修会のご報告

2019年1月10日（日）、松山東雲女子大学中講義室にて、中国・四国支部第53回研修会が開催されました。「能力や文化の多様性を引き受ける教室づくりへの挑戦」というテーマで、愛媛大学教育学部准教授の富田英司先生によるご講演を賜りました。

講義の前半では、本研修テーマの理論的背景となる「Differentiated Instruction（略してDI）」についてお話していただきました。

この理論は、「一人ひとりを活かす教え方、学習者一人ひとりのレディネスや好みに合わせることによって、学習者の成長や成功を最大化するための教え方や考え方」がベースとなっております。DIの基本的な考え方は、個別のニーズに合わせた教育や特別支援教育と同じであり、DIの観点からの環境設定や動機付け、指導方法の例、そして課題等について分かりやすく丁寧に説明してくださいました。

後半では、講師の富田先生が主宰し実践も行っている「愛媛大学放課後学習教室」についてお話していただきました。この教室は、地域連携の一つとして愛媛大学教育学部が責任をもって運営しており、学生自身が支援学生グループを構成して企画案を作成し、児童募集して学習教室を実践しております。特に、「ことばのよみかきコース」では、海外から移住してきた日本語初心者を含む要支援者の子どもを対象にしており、「発散的思考」や「収束的思考」などの思考スタイルに基づくグループ化や学習レディネスに対応したプログラムの作成の話は、臨床発達心理士として、子どもの発達や多様性を考慮した支援の在り方、かかわり方を改めて振り返るきっかけになりました。

参加者数は33名（中国・四国支部32名、他支部1名）、士会各支部主催の研修としての資格更新ポイントは1ポイント（3時間）でした。



7 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第54回研修会のご報告

2020年3月1日(日)、福山大学社会連携研究推進センター3階301号室(〒720-0061 広島県福山市丸之内1丁目2-40)にて、県立広島大学の林優子先生を講師としてお迎えして「地域で子どもたちを育むー多職種協働において心理専門職に期待するものー」というテーマで、中国・四国支部第54回研修会が開催される予定でした。

しかしながら、支部では、2月25日の「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」、2月24日の「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針の具体化に向けた専門家の見解」、2月26日の安倍総理による、今後2週間における多数の人が集まる全国的なイベントの中止、延期、または縮小の要請などさまざまな情報を総合して協議した結果、研修会の中止はやむなしとの結論に達し、中止とさせていただきます。

ご参加を予定されていた皆様には多大なるご迷惑をおかけすることとなりましたこと、深くお詫び申し上げます。

中国・四国支部連絡先：info@jacdpcs.org

(編集委員会)